

令和7年度岐阜県青少年美術展少年部の選定評

絵画・デザイン	幼・保	力強く、画用紙いっぱいに表示している作品が多く、心の声が線や色として表現されていた。楽しい様子が随所から伝わってきて、子ども達の躍動感が、そのまま線や色となって表現されていたように思う。子ども達は五感をフルに使って活動している。今後も、心に響く経験や、活動を大切にしながら成長し、心を映し出す作品がたくさん生まれることを期待している。
	小学校低学年	全体的に伸びやかでダイナミックな作品が多かった。クレヨンで描きこんだり、絵の具を重ねたりしてできた色の美しさを感じることで、ますます、楽しくなって意欲的に描き続ける様子が目に浮かぶ。また、表したいものに合わせて、スタンプやステンシル、版を写し取るなど工夫が見られ、いろいろな表現のおもしろさを体感することができている。
	小学校高学年	身近な生活体験や、興味・関心のあることから想像した内容など、心を動かされた対象を題材に選び、丁寧に表現している。学年に応じて、色や形の組み合わせ方を考え、描画材料の扱い方を工夫することで表したい表現に近づけようとする努力を感じる。これからも自分らしく工夫することの楽しさを味わってほしい。
	中学校	鮮やかな色彩による表現だけでなく、細かな線の表現や画面構成の工夫が多く、主題の伝え方について考えて制作されていることがよく伝わる。また、鉛筆等を用いたモノクロな表現も増え、陰影表現の美しさが伝わった。作品の傾向としては、デジタル機器の活用や漫画の表現方法を取り入れた表現もあり、今後の作品の多様性に期待ができる。
書写	幼・保 小学校低学年	どの作品も、一文字一文字を大切にし、心を込めて書かれている作品ばかりであった。平仮名は、結びなどむずかしい部分も多くあるが、やわらかさを大切にしている、あたたかさを感じられる文字が多かった。また、文字のバランスを考えながら力強く書かれている作品も見られた。今後は、さらに自分らしさを大切にしながら、書道を楽しんでもらいたい。
	小学校高学年	始筆から終筆まで丁寧な筆運びで、文字の配置も考えられ、バランスのよい作品に仕上がっていた。とめ・はね・払いも意識し、字全体に力強さを与えている。 学年が上がるにつれて、横画の間隔や縦画の間隔が、均等になり、成長を感じるものとなった。名前も含めての作品作りを意識し、全体の構成が整ったものとなっている。
	中学校	文字に思いがこもった、勢いのある作品が数多くあった。全体のバランスを考えつつも、一筆一筆の丁寧さを意識したり、筆の運びを大切にしたりして、個性あふれる作品づくりがなされていた。行書の字体を、自分らしく表現している作品も見られた。今後も書の楽しさを味わいつつ、長く書道に親しんでいただきたい。